



梅子所云集

乾

共
八

天

棣室附合集

東都金華堂梓

[illegible]

[illegible]

二
一
佐
助
の
白
海
老
や
成
成
ら
ま
く

松子やまてやまて人の後まつ

[illegible]

ふのつとちりるきすてふてはうをり

[illegible]

一 子之學也

おほしきおほしきおほしきおほしきおほしき

ひこやふあや輝光

老
子
書
之
五
十
一
言

おのゝとらそすし系のいさうき
不世に

すくもまきやうふのまゝに

この形のまのまの

齊々ふうと——さき雷さくし世に掠
 たりて遠く深きあきなりとす
 ちやい——さき此編去のふすは、
 ちやい——成るや秋のふちふち川の
 空ちやい——おひ——さきさき
 ちやい——さき

八景老人が

凡例

大人の句は唱へるにありきとす
 やちやい——技藝ある——
 功もくなくすはちやい——
 その仕はあ——んちやいあれと大人門中
 ちやいせもちやいせんちやい——
 周囲の歌を志すはちやい——
 ちやいぬ大人のちやい——
 ちやいあ——

一 禽獸も木の白まゝに成るゝある白
 とめを云つゝ標出ゝゝゝゝゝゝゝ
 使ひに素より沙雪ふゝゝゝゝゝ
 意のゝゝゝゝねハサゝゝゝゝ
 一 魚ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 あゝゝゝゝゝ

一 冠位訓釋のか温筋をゝゝゝゝゝ
 又又ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 一 一とやうを温筋ゝゝゝゝ

一 一とやう作表の名を記を記ゝゝゝゝ
 大人のゝゝゝゝ

一 附白月を無温難の部二を一聯
 なるゝゝ二ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 一 附白を他乃他ゝゝゝゝ後白ハ大人乃
 るなり

一 附白を續ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 記もゝゝゝゝゝゝゝ大人のゝゝゝゝ
 一 附白その時年月次をゝゝゝゝゝゝゝ

地錦

キサラキ二月ノ
異名氣更ニ
来ル義

丹波

今ウクヒスト呼
モハ漢名柴
楊柳

卯月ハ卯花月
略又周正ノ四月
卯ニ當ルヲ假
用ユト云リ然
當トシカタミ

春のふしはくのかさうの柳 春枝
春風吹ゆる枝葉乃 意

春風吹ゆる枝葉乃 意
小松のふしはくのかさうの柳 春枝

陽春のふしはくのかさうの柳 春枝
人々のふしはくのかさうの柳 春枝

春のふしはくのかさうの柳 春枝
春のふしはくのかさうの柳 春枝

春のふしはくのかさうの柳 春枝
春のふしはくのかさうの柳 春枝

春のふしはくのかさうの柳 春枝
春のふしはくのかさうの柳 春枝

春のふしはくのかさうの柳 春枝
春のふしはくのかさうの柳 春枝

春のふしはくのかさうの柳 春枝
春のふしはくのかさうの柳 春枝

鷗ノ屑ニ漢
名未詳

秧雞

秧

東花

近江湖水晴テ
少日アラキ

蒲黃
カマノホ

罌子粟

敗醬

夕光やまのほろふ人部多 林曹
高きさくさくの中絶一 百

おもしろやまのさくさく人部多 大梅
合飲のちめをそ 吟入う 念

おもしろさくさくやまの牡丹式 素珠
けうさくのさくさくはくさく 揮干

あつゝと洗ひ上るる子部式 袁丁
雪のふりやうやう

さくさくさくさくぬめをそく けんく 堀く
底のトナ 並み 蒲乃 穂

一さくさく芥子 並み けやう 堀り 堀く
さくさくさくさくさく 夏乃 号

めくさくさくさくさくさく 南窓
さくさくさくさくさく 新 露

さくさくさくさくさく 永葉
夢のふり乃 沈む 柳 橋

白頭翁

秋さひくきれ八月のほろろ 久蔵
栗刈さくさく 細橋

浅路を歩も七里ふすこ 一
房よりさき 新井 多さ

志さくさく旅のしや 高の秋 禾葉
離はくさくハあやかさる月

浮中さくお入るの干路が 一具
周もさくさく 入るさる

服并才三の部

ひささくはくさく橋のさくさく 美九
棟のひささくさくさく かりはく
井原さく旅の白ひ川さくさく

親伏のありさくさく 老く 禾葉
さくさくさくさく 三日月の照
弱虫のさくさくさくさく

くさくさ席の奔るや 行ける 禾葉
さく橋下はさくさく むさくさく

竹庵定治茶師
上林氏

月儀式ニ駒迎
アリ諸國ノ牧
ヨリ牽来駒ヲ
逢坂ヲ迎ラ云

液雨
火龍

富士六帖不
一統志不盡
作

眼 くらげのふと小室を冬籠
くらげのふと小室を冬籠
くらげのふと小室を冬籠

答ふ人乃そハ初キ一ノ案
 掃 溜 ち〜ハ 車 風 の 吹 出
 橋 渡 を 一 日 と ぬ 初 市 子
 五洲 聖帝

越前三雲若村
アリ豊太閤
所持持幸若
太夫生縁

雁ニ白キ尾ヲ
ツゲハ雪アル心
ニテ春ヲ忘ルハ
ナリ故ニ春白
尾ヲ徂フアリ

鳥銃

天又十二年八月
大隅種子島二
南蛮商船漂
着又其中二鳥

五ふ尺あうれとせしぬきし如く
 きのおもさうも家お望みの朱
 人の中は終るの意は同じく
 五ふ尺あうれとせしぬきし如く
 新のうらうらなうらうら
 漢の如きおかしう
 五ふ尺あうれとせしぬきし如く

荷分句
千句イトム
北山ノ寺

渡疏

瞿麥

月もさきなりふりやもさき門
中
山ものさきをさきと後りさき
悼 ありあり

卯のさきやさきなりやもさき
さき
後りさきなりやもさき
さき
昔、さきと後りさきなりやもさき
さき

さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき

さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき

さきの上をさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき

さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき

さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき
さきなりやもさきなりやもさき
さき

宗次蕉翁時人
シラクニ子ハ
原ミキユフヘナ
世僅此句を傳
。此句を兼集
見二作者是カ
タ

中右記保延元年
 正月三條見諸臺
 明月無双之曲被
 仰出上見ニタリ
 鵜
 鯨魚

温泉地中炙
 地中ノ水脉ニ交
 會スルモノ地上ニ
 登越スルナリト
 稻美水ノ考ヲ
 引テ香川太冲
 云リ

硯^{イデ}ノ^{イデ}や^{イデ}く^{イデ}も^{イデ}井^{イデ}乃^{イデ}月^{イデ} 産^{イデ}皮^{イデ}
 多^{イデ}の^{イデ}揺^{イデ}を^{イデ}蟻^{イデ}の^{イデ}海^{イデ}々^{イデ}車^{イデ}

ち^{イデ}の^{イデ}や^{イデ}虫^{イデ}の^{イデ}も^{イデ}の^{イデ}灯^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}
 萩^{イデ}の^{イデ}止^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}萩^{イデ}々^{イデ} 其^{イデ}の^{イデ}風^{イデ} 眉^{イデ}岳^{イデ}
 陸^{イデ}車^{イデ}秋^{イデ}の^{イデ}ぬ^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}引^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}

海^{イデ}の^{イデ}あ^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}月^{イデ}や^{イデ}り^{イデ}ナ^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}
 堀^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}の^{イデ}々^{イデ}々^{イデ} 灯^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}
 砂^{イデ}物^{イデ}の^{イデ}江^{イデ}紅^{イデ}の^{イデ}切^{イデ}口^{イデ}あ^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}

小^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}の^{イデ}色^{イデ}や^{イデ}産^{イデ}の^{イデ}々^{イデ}
 ト^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}の^{イデ}々^{イデ}々^{イデ} 乃^{イデ} 産^{イデ}々^{イデ}
 船^{イデ}切^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ} 投^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}

あ^{イデ}の^{イデ}岸^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}
 其^{イデ}の^{イデ}か^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}
 海^{イデ}の^{イデ}の^{イデ}風^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}

あ^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}
 海^{イデ}の^{イデ}細^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}
 産^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}々^{イデ}

然^{イデ}々^{イデ}

上
さゆりくはる時ふ式大梅
坐のさひ乃ふさるる
さいほとふなりる部

るを雨とふぬ形の小形式
あーたふさるる理
新馬を二本の杉を門ふ

ふさるるふ二ふさるる
ふの仕ふさるる
腰帯さるるあふさるる

蓮花とふさるる
さるるさるる
梅とさるる木の枝をさるる

第四分五の部

枕史記夏本
紀泥行兼龍
ト云ハソリナリ
カシキハ釘輦

梅咲や旅人ふへうけのあ
りよりかきさるる
程物をさるる
梅あつけさるる
梅さるるふさるる
さるるさるる

海蘊

檀子

弓神代紀
柳誓約ノ散
弓腹振起ト
アリ

贈殘魚

荀

桐とてハワウの家青柳
あふせ吹海^{モリ}雪のそれ初く
根^{モリ}わうあふさる業もな
そましく海^{モリ}雪の月^{モリ}の露

ふふ大^{モリ}後^{モリ}も^{モリ}ぬま^{モリ}は^{モリ}ふ
木瓜の^{モリ}青^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}山^{モリ}乃^{モリ}入^{モリ}口^{モリ}
弓^{モリ}そ^{モリ}え^{モリ}あ^{モリ}ち^{モリ}を^{モリ}試^{モリ}く^{モリ}一^{モリ}腎^{モリ}
弓^{モリ}の^{モリ}月^{モリ}あ^{モリ}し^{モリ}ハ^{モリ}聲^{モリ}な^{モリ}く^{モリ}鶴^{モリ}

あふさる^{モリ}列^{モリ}ら^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}ふ^{モリ}
あふさる^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}
上^{モリ}張^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}人^{モリ}乃^{モリ}さ^{モリ}中^{モリ}
坊^{モリ}も^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}月^{モリ}え^{モリ}僅^{モリ}す^{モリ}ま^{モリ}細^{モリ}

久^{モリ}う^{モリ}や^{モリ}あ^{モリ}ぬ^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}時^{モリ}さ^{モリ}
あ^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}乃^{モリ}秋^{モリ}の^{モリ}さ^{モリ}あ^{モリ}あ^{モリ}
一^{モリ}里^{モリ}さ^{モリ}屋^{モリ}根^{モリ}の^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}
所^{モリ}を^{モリ}流^{モリ}入^{モリ}も^{モリ}ゆ^{モリ}輪^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}
そ^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}乃^{モリ}七^{モリ}ハ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}の^{モリ}月^{モリ}

井^{モリ}の^{モリ}あ^{モリ}や^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}
あ^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}乃^{モリ}さ^{モリ}く^{モリ}月^{モリ}代^{モリ}
聖^{モリ}揚^{モリ}

あづきやうきまにわあそくまや
あづきと相成るそくなる

親ふ似く月まはるるの若る

あきまきうまはのころ山畑一嘯

井戸あき風を物のはを附て全

上トあきあきうきうき

海もななくたきまきあき海の上

あきうき米を買ううき秋

あきあきうきあきまき戸あき

あきあきあきあきあきあき

鯉魚

あきあきのあきあきあきあき

あきあきのあきあきあきあき

あきあきのあきあきあきあき

蝦虎魚

あきあきのあきあきあきあき

あきあきのあきあきあきあき

あきあきのあきあきあきあき

あきあきのあきあきあきあき

大化二年開
塞防入置
書紀見上

夕もまろくきしくと百もり

相風ハ大なりとくろく日め月

芦や小萩を落つては窓

隙をぬきしつゝも葉の初なる

乳のたるとを 逐くしてり

明もあつたひふふとく芒くぬ

きもやうとぬ 湾 乃 月

ふふふふふふふふふふふふ

産のやうとく 乃 乃 乃 乃

戸にりりりりりりりりりり

日あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

尾張

越前産

星崎や後をえせとる 室 新 彦

その難のうけとる 乃 乃 乃 乃

月のはたつたのうけとる 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

烟草慶長
十年外國
渡る漳州
淡婆姑出

茶旅

鴨小鴨
一前苑

禮投壺第四十
肥後熊耳先生
曾テ伊勢ニ
来リ投壺ノ
禮ヲ傳フ
青魚

隣りて人をとりとてやわら
なもこの飛乃たなむ月新
秋深く相のわ知ふものり
夢みぬもをせりまゝ之
泣やううに解きふあ

種ふつふはるまもまやうの
埃の飛る庭なり埋生
大根を繰ふにせはる出さ
あま向ふぬ張あーの風

あーののふはるまもまやうの
琴の音餌ふまゝあー鴨
丸一葉れ神もむもの張り
分讀まき一肩なうり

飛さけく月新ふなりぬ鵜
あけくまふげは涼る柴
庭風をまのつるまふを投ぐ
あふ葉乃葉もあー有之
梅ふを移ひ集るまゝま履

月の部

洛東銀閣寺
ノ後如意嶽
ニアリ

柔術拳法云々
搏云云福野磯曾
三浦ノ三大明陳
元寶ニ遇ニ柔術
一端ヲ聞テ各自
其技ヲ得テ元
寶ハ深州元略
知音ニテ元々唱
和集アリ

春時早ク荀ヲ
生スルヲ孟宗竹
ト呼ハ晋孟宗雪
中荀ヲ得タル故
吏ニコレヲ漢名
江南竹
連歌師宗鑑
俗稱支那弥三郎
山城崎ニ住シテ

大いふ山に、引、持の月

芋を上るゝ様るし乃子

春の月近にさうさうさうき

城のあゝぬとを自惚ふまゝと

表ハ白よ初夜色如月

さ月と好まりの秋ふゆふ

大萩ふ小萩ふゆふは月

相のあふはとのあふえさうさう

友縁けのきみきりー月

業のまゝさうさうさうさう

中萩とさふふは月あ

葛浸は流るゝ月の影

塚と雲さハまゝさうさう

さうさうをさうさう

常盤う形骨さうさうの月

山城

玄賓備中湯川
寺ニアリテ山
守リ鳥居ヲ
驚カシク苦ミ
ヲタスク世ニ山
僧都ト云

甲斐宿驛名

摂津西頭ノ近
氏屋簷ヲタ
ルハ里内裏遺
跡ナリト云

胡枝子花

蕉翁日光山
下ニ宿スヲ佛
丑左衛門ト云性
質正直ト云故
自然此稱ヲ得
タリ奥細道出

井田氏の梅田ニ云々此押うと
墨ノミツク明ミツクおの月

小田ニ云々りきのみふゆり
晴るる月ふ露をまきりれ

並崎を露かり露ふありと云
市んのり月のかき来乃純

うわつと云々きけうつり
はきききききききききき

おのの休日をもつと云々あり
月と云々ききききききき

登つていふを叩くも云々
月と云々ききききききき

をこれいふかききききき
月と云々ききききききき

やの車のかききききき
月と云々ききききききき

壺盧

鯢魚

大和布留

神名佐布都神

亦名瓊布都神

亦名布都御魂

烏鵲

此國鵲云云

推古帝六年

難波金

新羅ヨリ歸リテ

鵲鵲云云

波云云

諸音調半家

モトツキ東山

慈照院殿ニ

始ル

海和尚

夕の月の下のけさるる
ちの月のけさるる月

疎る人のあやむとるり

ゆるぎのゆるぎ月

ゆめのけさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

月けさるる月

淮南子烏鵲
填河成橋以
渡織女

京街名

越前如賀界
甲裳ウサスリ

れを揺る揺るをまゆに
ほころぶ月の夜よ人をあは

ねの第はききなりこき

影の移り月乃らるるに

群の沙汰とともくもす

肩揺る揺るをくく月影は

ちあともあとも何ともいぬ

ふ一と月あともいぬ法をさ

葉を吹くあともいぬさるる

あともいぬさるる月のあとも

ねまに揺る揺るを揺るゆも

秋ともいぬねまに揺る揺る

あともいぬねまに揺る揺る

まともいぬねまに揺る揺る

ありのあともいぬさるる

揺る月の夜乃らるる下空

上
下

泥魚

菽乳

京紫野大徳寺
大燈國師の庵
祖トス

團子祭園東
田舎ニアルト云

浪花

梵論師一云々
ヒシリ職人奇
合ニ出或ハ虚
無僧ト云非
ナリ

東鑑鶴岡室
前花藝ノ時
左衛門局祐經
鼓島三郎重忠
銅拍子多是
今ノ小鼓ナルヘシ

結つゝやと 夢や 夢や
人 此の 夢やと 夢やと 月

持れりり 夢やと 夢やと
夢やと 夢やと 夢やと 月

秋の 夕陽の うけりり 夢やと
大 夢やと 夢やと 夢やと 月

夢やと 夢やと 夢やと 夢やと
春の 夢やと 夢やと 夢やと 月

夢やと 夢やと 夢やと 夢やと
月 夢やと 夢やと 夢やと 月

夢やと 夢やと 夢やと 夢やと
夢やと 夢やと 夢やと 夢やと

夢やと 夢やと 夢やと 夢やと
夢やと 夢やと 夢やと 夢やと

夢やと 夢やと 夢やと 夢やと
夢やと 夢やと 夢やと 夢やと

夢やと 夢やと 夢やと 夢やと
夢やと 夢やと 夢やと 夢やと

夢やと 夢やと 夢やと 夢やと
夢やと 夢やと 夢やと 夢やと

夢やと 夢やと 夢やと 夢やと
夢やと 夢やと 夢やと 夢やと

凡言書ニ云ル
鼓ハ太鼓ナリ
鯨魚

婦人覆面ハ
貞亭比テ
遺レリ

豆マシイナス
漢名東尾
又六ニ休常ニ
過リシ酒店ノ
主人狂奇アリ

張継句
謠曲ニ入

鼓のや子ののいこもす
鯨魚のしづの月えさけし

曲を振れのそく 月 芳
八月のききまのききまをわき

婦のききまをわき 月 芳
月 芳のききまをわき

中判のききまをわき 月 芳
ききまをわきまをわき

ききまをわきまをわき 月 芳
ききまをわきまをわき

ききまをわきまをわき 月 芳
ききまをわきまをわき

ききまをわきまをわき 月 芳
ききまをわきまをわき

ききまをわきまをわき 月 芳
ききまをわきまをわき

齒齒

砥よりく町をぬけ
親とふのふりし月より

海の流れをくみきり

そよ月をたのびて

ふりし月をたのびて

あつた月をたのびて

海の流れをくみきり

そよ月をたのびて

あつた月をたのびて

海の流れをくみきり

そよ月をたのびて

あつた月をたのびて

海の流れをくみきり

前見

あつた月をたのびて

海の流れをくみきり

花の部

フかつきりゆいの色を素白と
しらふと遠くふさふさの家

今年う丁度七やうある

ふさふさい色ゆきまふの雪はひ

いふふ底をいふ細きこま

葉のふさふさいふさふさ

新の風の風ふあふふ

おふふふふふふふふふ

ゆふふふふのふふふふふふ
たふふふふふふふふふ

祝の上はあふふふふふふ
柳ふふふのふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

花をゆきまふふふふふ

ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ

聖武帝時
筑紫人新羅
國ニ漂流シ
痘毒ニ解レ
帰リテヨリ日本
ニ流布ス
蝦夷
陸奥ニ於テ

山城鳥羽
西洞院跡

卿一名麴

豊臣大岡時
能矣吳松城後
アリ老人雜詩
見云或云幡々
千利下弟子

澤のうら荒乃 浪々
上るぬりをもとえ通人 西洞院
卿の松乃 法能きをもと
仰ふふ接れはるふふおも
白をのけし 能くともあり
若松るおもおさるふちまらる
松しるふちを法る
そのふりるふあるふさる

短襖

日本知

山城島羽

西洞院
名京街

鯉一名鯢

豐臣大將ノ時
能矣吳松感後
アリ老人雜話
見ユ或云八幡久
千利信弟子

[illegible]

棘鬣魚

此丸
此名誰トモ指
カタシ季子ト
云シタメ歟

宋二句未也

竹堊

竹堊のちりけうけり
竹堊のちりけうけり

竹堊のちりけうけり
竹堊のちりけうけり

竹堊のちりけうけり
竹堊のちりけうけり

竹堊のちりけうけり
竹堊のちりけうけり

竹堊のちりけうけり
竹堊のちりけうけり

竹堊のちりけうけり
竹堊のちりけうけり

竹堊のちりけうけり
竹堊のちりけうけり

竹堊のちりけうけり
竹堊のちりけうけり

紀事十卷
 歲大和國窪田
 箸尾西村ヨ由
 正月五日禁裏
 水造如東清盛
 來云今方殿六
 皆川流七十壽
 畧セキルヘシ

ふもろのうらなふもろのうらな
 るふのふすなもののたへはふん
 せつなうらふたの草へ
 けしきものうらなえふのうら
 名のうらなふもろのうらな
 貝吹うらなうらなふもろのうら
 ふのうらなふもろのうらな
 けしきものうらなえふのうら

うらなふもろのうらな
 けしきものうらなえふのうら

うらなふもろのうらな
 けしきものうらなえふのうら

うらなふもろのうらな
 けしきものうらなえふのうら

うらなふもろのうらな
 けしきものうらなえふのうら

立春ヨリ八十
 八日頃霜降ラ
 云霜又別霜
 ト六

牽牛花

弥生ハ草本
弥生スナリ

僧ノ名津藏
貴所ア下此
ニハ不関

字要
花供養ヲ多シ
片ハセヲ用フ
アリ

江戸

ひまの移れ地とす 懶惰
まふさや姫かこゝろあけ

一はうとわと 新あを 荷
うまうとまふさや姫かこゝろあけ

長くうとわと 新あを 荷
弥生七日 八日 九日 十日

洋花 只 みる ちうと

止り ちうと 弥生 乃 ち
休みのひと 働く ちうと

より 合 ちん ちうと 山 ちうと
龍 炎 ちうと ちうと ちうと ちうと

新の 龍 ちうと ちうと ちうと ちうと
根津 ちうと ちうと ちうと ちうと

机の ちうと ちうと ちうと 餅
ちうと ちうと ちうと ちうと

恋の部

夢の如く隣乃少き路引く
余はうゝこれハ節室ぬゑ

とものゝぬとく心極むとく

月一板情あゝはとさー白ひ

想くく結く井金華の佐

かつきのあぢひうゝうゝ

たふれくあぢひうゝうゝ

大和

西施病子眉ヲ
顰ム鄰ノ醜
婦美ナリト
亦顰ニ倣ヘリ

正月初辰白水
ヲ屋極ニ染シ
火災ヲ歴スヲ
辰祭ト云

新婦人小同初形は結くま
うゝうゝあゝあゝ

瘡の熱をぬくうゝうゝ

あゝうゝあゝあゝ

居のむれ門をとくかゝ

年よかゝれとあぢあぢ

うゝあゝうゝあゝ

筑前

源氏末摘花

陸奥

櫛 櫛 建間
見エタリ

除夜月令廣
義除日除盡
今歲以更新也
トアリ

コトニ書馬

あゝあゝの心を移さむとて侍を

麻衣のほろもきとて侍を

宰府のほろもきとて侍を

朝三のほろもきとて侍を

夕掛のほろもきとて侍を

うらやまのほろもきとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

あゝあゝの心を移さむとて侍を

悪きうたひくひるたまさか

ぬきまれ一筋の髪もくられあり

叫くやうな名はゆふ

きのふあゝと鳴るものゝち

顔は女まかゝひまゝ一ま松

あゝあゝ一鏡をかゝるまゝ

髪のおとろゝく後くゝ川、

あゝあゝうたひくひるたまさか

小川の邊をわたり

悪の味もやうなぬものゝ

あの上へもあゝと

あゝあゝあゝ切ゝるゝ

あゝあゝあゝの程より啼く

くゝくゝあゝあゝ

ちいさなあゝあゝなるゝ

淀川三源八渡
アリ其辺ニ宮
アリヤス

掛津

昔婦傾城ハ
詩經三出後世

轉名物稱
トス

京西郭

遠江

橘カウシ漢名

ナリ今タチナト
六漢名候橘

提琴

欽明帝ノ時
鞍部徳積ヲ
以テ僧都トス

似塔のちつと和田の小松系

あゝるのちつと小松系

あゝるのちつと小松系

和の切みそを垂なく、いりき
おる織るる抱女ハ隠しに

浪波のさくさく水る新夕
はるさくさくはるさく

えんさくさくさくさく

きんさくさくさくさく
はるさくさくさくさく

入聲せよと僧部りせよ
さくさくさくさくさく

あゝるのちつと小松系
人の新のはるさくさく

本筋の首領さくさく
帰る秋風

山卧（後）角ヲ
祖トス（山）ヲ
陟シ（修驗道）
唱フ

無縁寺國ニ
アリ

猪殃（ハ）々（ラ）

男子齒ヲ添フ
鳥羽院（始）黒
滿風外國ヨリ
入来（ト）可歎

肥後

山伏ニ（形）人の角を折（れ）るを
泣（く）る（も）す

夏のわら（と）ふ（に）世縁（の）清
き（や）ふ（あ）く（え）と（は）く

ち（き）つ（の）縁（に）かく（れ）も
あ（の）縁（の）ま（あ）る（は）る

縁（に）く（も）あ（の）縁（の）

紀伊

下總

山卧（役小角）ヲ
祖トス（山ヲ）蹴
陟シ修驗道ト
唱フ

無縁寺國ニ
アリ
猪殃々

男子齒ヲ添フ
鳥羽院始ル黒
齒風外國ヨリ
入来ル可歎

魚のふたなりをうへに
色あはる 好田乃 ち 格

物 思ふより 雲々 ねん
魚 子とさし 細く 灯は

又、川邊へあつた。此の
所は又、床のふりま

日暮のうらやま
あふくをきこへり
長刀

山伏は邪鬼の角を折れども
泣くもあらず

夏のわらふに 縁さの遠
 かりやうきあはれとて 花とく

高きつゝ海へ行くといふ
 旅の心持もまた海に

緑組の部

某の...
...
...

響聲と目ふた...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

三斗三滿過便
休四休居士
句山谷集

俗説ニ菰栗ト
書ハ祝ノ意ト
云ヘリ

三^{ニル}平^{カホ}ふふあゝまの昔々

西三河の二里
 三河の二里

聖くも明くも善くも
 慈くも福の如くも
 衆の如くも

上系の歴々達乃鳴々系
かゝる時の像入るの？

序はてしなく
あるところ

夢
 覺と月なをうらむ折みそ
 のあふこころは

くさあけのそく なやまうれし
新あゝ ねあゝ とうちや

[illegible]

ちとれ 乃 乃 の 乃 う き

甲斐

伊勢一身田

一向宗下野流

本山高田八下

野地名

古く千手普賢
ナド云遊妓リ

私語
カノコト
獼猴

六士十月云
四極ノ博也
ルヘシ

シヒナ前見
改母鳥

名をさげハ佛のやうな持女を

まはさるの味をくらや〜叫て

しら〜まを ぬ〜人 傘

その愛ふ日乃並人川とわ
か〜れてもそれと若れ〜幸也

き〜き〜は〜き〜き〜き〜き〜
後をかつ〜心〜ゆ〜ゆ

初機をい〜い〜い〜い〜い〜い〜

難〜細〜を〜何〜何〜何〜何〜何〜何〜
その難を越〜入〜う〜も〜さ〜ゆ〜

リ 難めなれ 難 き 百
第〜何〜何〜何〜何〜何〜何〜

ろ 難〜何〜何〜何〜何〜何〜何〜
ろ〜ろ〜れ 上戸とさ〜ふれ〜こむ

ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜
ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜

スチ組紐ヤウノ
ミロニテ西ハシニ
フサマリト替
ヘキモノニアラス

新
組
紐
の

井

井

人さへあはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

あはれを留す女

播磨

室遊女アル
久三撰集抄
一

三河

肥前

名古屋帯
組紐
西ハシ
フサマリト替
ヘキモノニアス

一向宗三御朝
時ヲ重勤行
トス

ちのちをいふは
る風をよひておとれ料理
恨まひていふは

る風をよひておとれ料理
たきりていふは

ちのちをいふは
香の氣にむきとけ乃に

たきりていふは

年をかゝへハ娘を侍

一口も喰へぬ菌をけや

三千歳の娘たききものい

をくくくくく海乃吾に

秘めたるなりふ眉を^{カキ}画あふ

風輕きなりなりなり物い

思ふあうくはな上くく

あふくくくくくくく

あふくくくくくくく

恨きくくくくくく

あふくくくくくく

たきくくくくくく

あふくくくくく

あふくくくくく

たきくくくくく

撰津

眉^ミ子^コ島^{シマ}我^ガ
朝^{アサ}神^{カミ}留^ル后^コ
紀^キ子^コ見^ミ新^{シン}
羅^ラ國^{コク}子^コ子^シ
美^ミ女^メ子^シ時^{トキ}如^ニシ
トアリ

一向宗^ニ御^ミ朝^{チウ}
時^{トキ}重^{チウ}勤^{キン}行^{コウ}
トス

無食桑甚ト
アリテ女耽シヲ
イマシメタリ

非リ井儀式帳
於不貴御門下
出外古典籍
中載見古
横水ヲ雞栖
故遠門ヲ稱
井トスルハ
三門中雞栖
故和名抄相
門雞栖也ト云ハ
牽合ト通シ
撰津
福原ノ京公平

乾々ぬ角なたるる日おこり

年更くくさるるりるる

人のいふことくくく

とくくのちのくくく

けくくのくくく

くくくのくくく 福原乃系

相國所禁今
ノ兵庫

法印八法眼續稿
ヲ登テ身僧位
ナリ三代実録ニ
貞觀六年始テ
定メラル
イナノ種類アリ
總名鑑
拭正ハゴフ

書紀天武帝
朱鳥元年新
羅進調貢上
百餘種別献
屏風より屏
風始テ此ニ見

さうんうさふのそしれまのう

はらゝるのやうのふさふさ

うさふさうさふさうさ

あふのうさふさうさ

はらゝるのやうのふさふさ

あふのうさふさうさ

うさふさうさふさうさ

あふのうさふさうさ

うさふさうさふさうさ

あふのうさふさうさ

うさふさうさふさうさ

あふのうさふさうさ

うさふさうさふさうさ

あふのうさふさうさ

うさふさうさふさうさ

魏文帝與鍾
繇書九月
月日並應陽
故戶重陽

香 天智帝
藤原内太
家ニ幸シ玉
黄金香炉ヲ
賜リシ事書
紀ニ見ユ香
包六漢香囊

閏月公氣盈朔
餘分三年

ウルツギノ訓
日本紀閏月ト
書ルニヨリ

江戸神田祭
祭神大己貴命
距本殿若手歩
祭平將門

ハハ荆棘類

うさぎのきりぎりすをきく

きりぎりすのきりぎりすをきく

あつれなう 情むおき

牡丹のぬきく 情むおき

物さうきりぎりすをきく

けささききききききききき

流のさききききききききき

きききききききききききき

きききききききききききき

きききききききききききき

きききききききききききき

きききききききききききき

きききききききききききき

きききききききききききき

きききききききききききき

故曰重陽

香 天智帝

藤原内太

家ニ幸シ玉

黄金香炉ヲ

賜アリ事書

紀ニ見ユリ香

包ハ漢名香裏

閏月公氣盈朔

歴餘分三年

ユルツギノ訓ハ

日本紀閏月ト

書ルニヨリ

江戸神田祭

祭神大己貴命

距本殿着手歩

祭平将門

今ハ荆棘類

牡丹ノ如ク病ヲ女ノ身
物ニクシテ病ヲ女ノ身

汗ノ如ク病ヲ女ノ身
流ノ如ク病ヲ女ノ身

心ノ如ク病ヲ女ノ身
身ノ如ク病ヲ女ノ身

如ク病ヲ女ノ身
如ク病ヲ女ノ身

如ク病ヲ女ノ身
如ク病ヲ女ノ身

如ク病ヲ女ノ身
如ク病ヲ女ノ身

桑甚

さつちきく裡乃るちん
りきくちんかひちんかきれそ
りきくちんかひちんかきれそ

さつちきく裡乃るちん
りきくちんかひちんかきれそ



